

「令和 8 年度 市政報告会・意見交換会」開催結果（片浜地区）

以下のとおり結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日 時 7月7日（火） 午後7時00分～午後8時30分
- (2) 会 場 片浜コミュニティ防災センター
- (3) 内 容 市長からの市政報告・地区からの質問
- (4) 参加人数 32人

2 市長からの市政報告

3 地区からの質問 別紙のとおり

4 当日の様子



令和 8 年度 市政報告会・意見交換会（片浜地区）質問・要望一覧

日時：令和 8 年 7 月 7 日（火）

19 時 00 分～20 時 30 分

場所：片浜コミュニティ
防災センター

番号	事 項 名	担当部課
1	国道 1 5 0 号線及び旧道の道路管理について	建設課
2	坂井地区の防波堤と自転車道（東海遊歩道）間の遊休地の環境整備と活用について	建設課

令和 8 年度 市政報告会・意見交換会

片浜地区（7/7 開催）

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	1 国道 1 5 0 号線及び旧道の道路管理について
内 容	150 号線道路の片浜区ふれあい広場（片浜グラウンドゴルフ場）付近では、ガードレールに草木が茂り、海岸からの出入りなど見通しが悪い状態になっています。 交通量も多く、道路の法面も急斜面であることから地域での対応が難しいため、対応をお願いしたい。 交通安全の観点からも住民の方から要望が出ております。 国道の除草などは定期的実施されている箇所と、そうでない箇所があるため、恒久的な対応を検討して頂きたい。 その他、旧道でも道路面の劣化等により、道路に穴や段差が発生しています。 車での通行に支障は出ていませんが、通勤、通学の自転車、原付などが路面の穴などでハンドルを取られる危険もあるため、定期的な点検や対応を進めて頂きたい。 【担当：建設課】
回 答	国道 150 号は、県の島田土木事務所が管理しているため、県に確認したところ、これまでは、道路上に草が繁茂し、通行の支障になる箇所について除草作業を実施していましたが、今後は路肩から 1.0m の範囲を定期的実施していくとの回答でした。 なお、恒久的な対応については検討していくとのことでした。 また、市道の損傷等につきましては、現在、月に 3 回市内全域を職員が道路パトロールを実施しております。また、牧之原市民レポートや電話等の通報を受けた際には、現場を確認したうえで業者に連絡し、道路の穴などの修繕を実施しております。

	引き続き、道路パトロールを実施するとともに、地区の皆様もお気づきの箇所がありましたら、市に御連絡下さるようお願いいたします。
--	---

令和8年度 市政報告会・意見交換会
片浜地区（7/7開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	2 坂井地区の防波堤と自転車道（東海遊歩道）間の遊休地の環境整備と活用について
内 容	片浜区は、広い海岸線に隣接し、防波堤の整備が行われていますが、長く自転車道の間の緩衝遊休地が放置され、特に坂井地区においては側溝清掃時等での草刈りでは全く環境が整備されず、高齢化がさらに拍車をかけ雑草が生い茂る場所となっています。 そこで、繁茂する雑草樹木を除草撤去し環境美化をすることで地域の美化と今後の管理を効率化することで美しい地域に再生することになり、さらには環境美化された遊休地をグラウンドゴルフ場などに換え、地域活性の場づくりに活用されればと考えますが、市の考えをお聞きできればと思っています。 【担当：建設課】
回 答	片浜区の自転車道の間の緩衝遊休地につきましては、定期的に除草作業を実施しておりますが、面積が広いため自転車道に接している箇所の除草となっております。 今後の活用計画につきましては、県が実施しているレベル1堤防の粘り強い化の設計及び工事で、遊休地を活用する可能性があるため、市としましては、県のレベル1堤防の整備と合わせて検討していく考えでおります。 現時点ではこれまでどおりの対応とさせていただきたいと考えております。

「市政報告会・意見交換会（片浜地区）」の当日参加者による質問

※会場での質疑応答を要約してあります。

追加質問 1 榛原庁舎の津波浸水対策について

本日配られた資料の「市政経営」の「榛原庁舎津波対策事業」に 1,320 万円が計上されているが、具体的にどのような津波対策を実施するのか。1,300 万円程度の事業費でどのような対策が可能なのか。

【回答者（市長）】

榛原庁舎の津波対策については、L2 津波により駐車場で約 1m の浸水が想定されていることから、1 階にある機械室への浸水防止対策を実施する。現在設置している止水板をさらに充実させるとともに、北側からの浸水を防ぐため、周囲を約 1m 程度かさ上げするなどの対策を講じ、津波の庁舎内への進入を防止し、機械設備の浸水を防ぐものである。

追加質問 2 県から見た牧之原市の強みについて

4 月から副市長 2 人体制となったことを踏まえ、県から着任した副市長に対し、外部から見た牧之原市の強み、今後、持続可能な市政運営を進める上で「武器」として活用できる最大のストロングポイントの一つ挙げてもらいたい。

【回答者（櫻井副市長）】

4 月から副市長に就任し、3 月まで県庁に勤務していた。経済産業部をはじめ、秘書課、知事政策課、財政課などを経験しており、これまでの知識や経験を生かして市政の発展に取り組んでいく。

県から見た牧之原市について、小中学校の統合による義務教育学校の整備、沿岸部の活性化、高台開発など、将来を見据えたさまざまな事業を積極的に進めている。特に、未来への投資を進める市政が牧之原市の強みである。

また、農業などの第一次産業、製造業などの第二次産業、サーフィンをはじめとする第三次産業まで、多様な産業基盤を有している。市民所得も県内トップクラスであり、こうした産業の強さを基盤として、さまざまな施策や事業を展開できている。